

## 阪神・淡路大震災

今から 26 年前の 1 月 17 日、兵庫県を中心として阪神・淡路大震災がありました。ちょうどこの寒い時期の朝早い時間です。震度 7 の揺れを感じた地域もいくつもあり、建物の下敷きになったり、火事から逃げ遅れたりして、亡くなられた方は 6400 人にもものぼりました。

去年の今頃のことですが、テレビを見ていたら、この大地震から逃れ、今でも元気で生きている方のインタビューが流れていました。その人の言葉を紹介します。

大きな揺れがあった後、いくつもの家が倒れ、ビルは崩れました。私は何とか家の下敷きにならずに、生き延びました。何が何だかわからず、あっという間の出来事でした。

家を出てみると、近くで「助けてくれ。」という叫ぶ声がします。近くの家の人が、倒れた家の下敷きになって動くことができません。「今、すぐに助けるよ。」と言いましたが、のこぎりも、荷物をどける道具もありません。近くにいる何人かで、一つ一つ、柱や、畳、ガラスなどを取り除いていきましたが、いっこうに叫んでいる人にはたどり着きません。

やがて、遠くの方から火が上がりました。火事が起きたのです。遠くだから大丈夫だろうと思って、がれきを取り除く作業を続けていました。火は、だんだんと近づいてきます。火の勢いは強く、あっという間に近くまで忍び寄ってきました。

「もう、逃げてくれ。」下敷きになった人の叫び声が聞こえました。「助けてあげられなくてごめんなさい。」そう言って手を合わせてその場から離れました。私は、その時の気持ちを一生忘れません。

このような話でした。

この地域では、今でも歌い継がれている歌があります。「しあわせを運べるように」という歌です。

地震に負けない 強い心をもって

亡くなった人の分も 毎日大切に生きてゆこう

そんな歌詞が並びます。機会があったら是非聴いてみてください。

— 「しあわせを運べるように」 視聴 —